

授業科目の区分等：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	必修
担当教員			
前田 拓生			
授業のねらい（概要）	本演習では、ビジネスパーソン、特に会計・金融実務家に必要な素養を育成するために、3年次に学んだ金融ファイナンスに関する理論・分析手法を発展させるとともに、卒業論文を完成させることを目的とする。また、地方創生に資する社会デザインについても考察する。具体的には、金融ファイナンス等の面からの地域おこし、地産地消等に資する活動を通じて研究する方法等を学ぶことになる。加えて、SDGs及びESG投融资をベースにサービスデザインを用いた実践的なPBLを応用し、地域活性化に資する社会実装を行う。そのため、課外でのフィールドワークによる活動も行う。 なお、本演習では、DPに掲げた「財務分析を行い、経営改善に関する助言を行える能力」を養うことを目的とする。		
授業計画	<p>第1回</p> <p>金融経済分野に関する個別論点について、調査・研究及び社会実装（フィールドワーク）した内容を発表し、全員で議論等を行うことで理解を深めるとともに、卒業論文の作成に向けて進めていく。</p> <p>具体的には、上記の調査・研究・フィールドワークを通じて、以下を行う。</p> <p>卒業論文のテーマ確定 各自のテーマに関する資料の収集及び整理 各自のテーマに対する個別論文指導</p> <p>なお、論文作成においては、経済学等の手法を用いて仮説を立てるとともに、必要に応じてフィールドワーク（地域活動に参加）を行い、仮説検証に向けての考察を行う。</p> <p>※第1回から第4回までは【遠隔】による授業。第8回、第11回、第14回は【課題】。</p> <p>予習（時間）：各自が定めた個別論点について、毎週発表できるように調査・研究を計画的に行い、レポート、発表資料、プレゼンシート等を作成する。（120） 復習（時間）：ゼミで議論した内容を踏まえて、レポート、発表資料、プレゼンシート等を適切に修正する。（120）</p>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP(商学部会計学科)を意識した科目となっている。 財務分析を行い、経営改善に関する助言を行える能力		
到達目標	<p>①金融ファイナンスに関する理論・分析に必要な技能を持つ</p> <p>②会計学や金融論の分析手法を用いて、自分の意見を発表できるとともに、論文等にまとめるために必要となる技能を持つ</p> <p>③地方創生に資する活動を企画・実施するための技能を持つ</p>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	課題等を提出した場合、注意点等を赤字（又はWord提出の場合は、ハイライト）で記入の上、返却する		
履修上の注意	次の事項について十分に注意をすること。①病気等やむを得ない欠席の場合には事前に担当教員に連絡をする。②欠席（公欠を含む）5回で履修放棄と見なす。③グループ討議等を指示された場合は、積極的に意見を述べ合い、時間内に発表できるよう全員で協力する。		
成績評価の方法・基準	プレゼン50%、レポート課題30%、学修意欲20% 但し、学修意欲においては、グループリーダー、発表者の役に積極的に就いたもの等により高い点を与える。 なお、期首に向上させたい技能・能力を自己申告し、期末に当該技能等が如何に向上したかを教員面談で確認することで、成績評価に反映させる。		
教科書	『新版 論文の教室』新版（2012/8/28）NHK出版 9784140911945 1,320円		
参考書・教材			
備考	<p>第8回 当初シラバスの「授業時の講義内容」に充当する資料と「授業時の指示」を代替する資料の配信、および作業指示をmellyなどで行い、調査結果の小レポート作成や提出は当初シラバス通りに実施する。これらの指示確認等を6、7回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第11回 第7回同様の実施として、指示確認を9、10回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第14回 第7回同様の実施として、指示確認を12、13回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>成績評価の方法・基準欄の「定期試験」は、本学の感染状況への対応を踏まえて「最終レポート」で代替することがある。その場合には速やかにmelly及び授業で実施方法の詳細と評価基準を受講生に告知する。</p>		
教員との連絡方法	メール（アドレスは授業内で周知）		